



教育改革の

動向に注視を！



教育学部同窓会 会長
白杵 勇人

日ごろから教育学部同窓会の活動推進に格別のご理解とご協力を賜り深く感謝申し上げます。

六月三日、令和五年度の評議会を四年ぶりに開催することができました。

ご多用の中、ご臨席賜りました藤林教育学部長様、高木教育実践学研究所科長様、そして、県内各地より出席いただいた各地区の支部長、学科代表の皆様にご感謝申し上げます。新型コロナウイルスは、五月八日から季節性インフルエンザと同様の五類とはなりましたが、まだまだ油断のできない状況が続いております。そんな中、直接皆様と顔を合わせながら評議会を開催できたことを大変嬉しく思っております。

評議会議事の前に、教育実践学研究所生四人への奨学金授与式と各自の研究を発表していただきました。大変素晴らしい内容で頼もしい限りでした。

評議会議事として、昨年度の事業報告、決算、そして本年度の事業計画、予算案並びに規約・規程の一部改定について慎重審議を行い、すべてについて承認していただきました。

さて、来年の令和六年、新潟大学創立七十五周年を迎えます。大学では実行委員会を組織して七十五周年事業を計画、準備をしています。教

育学部同窓会も連携・協力しているところでです。

ところで、現在、教員の勤務実態調査を受け、長時間労働「教員働かせ放題」をどう改革するか、「ブラック職場」と言われる業務の負担軽減、給特法の見直しなどの施策を国や文科省が検討段階に入っています。そして、教員確保のため民間企業に對抗し、来年度の採用日程を六月十六日標準とするよう都道府県教委に要請しています。新潟県教委は小学校採用筆記試験の出題範囲を国算の二教科に縮小して教員確保を目論んでいます。今、教育学部の学生は将来教職に就きたいと真剣に学んでいます。令和四年三月の卒業生の教員就職率が五十九%となり毎年増えてきています。日本の将来を担う子どもたちのための教育を行うには、教員の待遇見直しと業務の軽減、やり甲斐、働き甲斐のある職場環境の改善が最も重要です。教員の待遇改善や教員の確保などの教育改革の動向を今後ともしっかりと注視しなければなりません。

アフターコロナの中、教育学部同窓会の活動を粛々と進めて参ります。持続的で充実した運営と各種事業の推進のため、会員の皆様からの更なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

花鳥風月

子どもは、保護者や地域の方々、学校の教職員から褒められた経験が多いほど自尊心や自己肯定感が育つと言われています。「自分には、自分らしさがある」「今の自分が好きである」という感情は、褒められることで醸成されていきます。

しかし、「褒めることがない」「何を褒めたらいいのか分からない」「どのタイミングで褒めればいいのか」などの声を耳にすることもあります。また、私も子どもを褒めようとして「ここまでやり遂げることができたら褒めよう」と考えていると結局はそこまで行かずに褒める機会を逸することがあります。

以前参加した研修会で聞いた話の中に、「当たり前にできていることを褒めましょう」「二十五パーセントぐらいできたところで褒めましょう」等の褒めるポイントの紹介がありました。

大事なのは、あなたのことはしっかりと見ていますよと子どもにメッセージを送ることだと思います。できることから実践していきましょう。皆さんもどうですか？

(広報部 高橋 新一)

情報
交換

情報
発信

新潟大学
教育学部同窓会
ホームページ



評議会の報告

六月三日(土)、新潟教育会館を会場に、新潟大学教育学部学部長、藤林紀枝様、教職大学院研究科長、高木幸子様をご来賓にお迎えし、同窓会の評議会が開催された。

評議会では、令和四年度の会務報告・決算報告があり、令和五年度の本部役員が承認された。続いて、令和五年度の活動の重点と各専門部の活動報告・活動計画、予算案の提案があり、いずれも全会一致で承認の運びとなった。

冒頭、白杵勇人会長から、来年の令和六年、新潟大学創立七十五周年を迎えるにあたり、大学では実行委員会を組織して七十五周年記念諸行事を計画・準備していること、そして、同窓会もこれに連携・協力していくことが示された。また、会員の減少に伴う支部会費の減少という課題はあるが、この同窓会は未来を担う子どもたちのために持続可能な組織として今後も継続・発展していくように協力をいただいたという力強い言葉があった。

続いて、ご来賓の藤林紀枝教育学部学部長様から、最近の大学の状況を交え、ご祝辞をいただいた。主に次の二点である。

一つ目は、実
験や実習を含
め、対面による
授業が再開し、
キャンパスも賑
やかな雰囲気と
なり、学生の笑
顔が戻ってきた
ことである。人
間と人間のコミ
ュニケーション
の大切さに気



祝辞 藤林紀枝 学部長

付くことも多かったとのことである。

二つ目は、ChatGPT等の生成AIが大学内外でも使用可能な時代となり、その活用についてどのように学生に指導していくかという課題が生まれたことである。思考力を高めるための考える場を持つことを大切にしつつ、それとAI活用スキルを高めることを区別し、これらの課題をボジティブに考えていきたいとのことであった。

高木幸子教職大学院研究科長様は、次の二点について述べられた。

一つ目は、主体的対話的で深い学びや個別最適な学びと協働的な学びの一体化が言われているが、指導者側の教員も自主的・主体的に学ぶ「新たな教師の学びの姿」の実現が求められていること。我々教師も子どもたちと一緒に育っていくために、研修観を転換し、自ら学び続けていくことが大切であること。

二つ目は、教職大学院では現場に出てさらに力を発揮するために、考えるための背景や理論形成するための土台を二年間を見通しながら築いていく。そのためには、カリキュラムの見直しやチャレンジする場が必要であること。



評議会の様子

令和五年度の活動の重点

一 「同窓会の集いの充実」

・講演会・親睦会として、時代の要請にマッチした講師の選定、内容の充実を図る。

・支部組織の強化や学科の仲間にも呼び掛けを行い、絆強化のよい機会とする。
・コロナ禍での開催方法を工夫し、安心・安全な「同窓生の集い」となるようにする。

二 広報活動の充実

・より親しまれ、読み応えのある「教育新報」を目指し、内容の充実を図る。
・会員相互の情報提供及び情報交換の場として、ホームページの一層の活用・充実を図る。

三 組織の充実と強化

・コロナ禍でも各支部活動や学科の集まり、同期の会など、縦と横のつながりを支援する。

・専門部の事業や各支部・学科の活動を基に、会員の帰属意識の向上を図る。
大学との連携

四

・教員養成改革の動向に合わせて、母校の発展のための助言や支援方法を工夫する。

・学生への支援並びに学部教官の同窓会活動への参加を働き掛ける。

・教育学部、教育実践学研究所と連携して、「カミングホームデイ」を開催し、教官との情報交換と絆づくりをとおして、同窓生の帰属意識を醸成する。
全学同窓会との連携

五

・令和五年度の全学同窓会交流会・講演会(医学部保健学科担当)への参加を呼びかける。

・「新潟大学カード」の周知を図り、加入者・利用者を増やす。

・全学同窓会賛助会員の周知を図る。
・令和六年度の新潟大学創立七十五周年記念全学同窓会交流会の計画・準備を進める。

(文責 栗田 貫)

参加無料
申し込みは
支部長へ!

H31年3月～R5年3月 卒業生・修了生のみなさん

教育学部・教育学部同窓会 共催

カミングホームデイ昼食会

日時 2023.08.05(土)

会場 ホテルサンルート新潟

時間 12:00～14:00

4年ぶりの開催となります。ホテルランチとスイーツでホッと一息つきませんか。
楽しい話、困った話、とっておきのお話を聞き合いましょう! 奮ってご参加ください。



支部長会・学科代表者会の報告

令和五年六月三日（土）、新潟教育会館において、評議員会に引き続き、支部長、学科代表者の合同会議を開催しました。

今年度は、これまで別々に開催していた支部長会と学科代表者会を合同で開催しました。それぞれの立場からの意見を共有することで、今後の同窓会活動の方向性について幅広い視点で考えることができればと考えました。

現在、地域ごとに三十四の支部があります。出席してくださった支部長は六名でした。また、全部で二十八ある学科からは、七名の学科代表者が出席してくださいました。いずれの人数も、新型コロナウイルスの感染拡大前の出席者数を下回る数です。感染が拡大していたこの三年間に、支部長や学科代表者が交替したことも影響しているのかもしれませんが、今後の組織の維持や活動の継続性が心配されるところです。会議のオンライン化なども含めて検討する必要があるのかもしれませんが。

会議の冒頭では、事務局から昨年度の会費の納入状況についての説明があり、そこから、会費の納入や算定の基になる同窓生名簿の提出について話題になりました。

新型コロナウイルスの感染拡大前の令和元年度には、それまでより早い時期の四月に、同窓生名簿の提出と会費の納入をお願いし、事務局に提出していた各所属の名簿を、各支部長にも送付することになりました。

しかし、支部長からは、「各所属から名簿がなかなか提出されない」「支部内の会員が把握できないため、各所属への働き掛けをスムーズに行うことができない」などの状況が報告され、必ずしも業務が円滑に行われているわけではないことが明らかになりました。

今後、会員の所属意識を醸成するための取組を継続するとともに、名簿の提出や会費の納入については、事務局と支部長が連携を図

りながら、組織的に対応していくことが必要であると共有されました。

会議の後半では、支部の活動や学科の活動の進め方について意見交換が行われました。支部の活動については、「勤務地と居住地が離れている人が多く、日頃からの関わりが持ちにくい」「支部の集いを行うとしても、職場が広域にわたっているため、集まるのが難しい」といった地理的な条件に関わる課題が多く出されました。

また、学科の活動については、「新入会員が少なく、いつものメンバーだけで集まることが多く、組織が拡大しない」「新たな卒業生の情報がかみかず、名簿の更新ができない」などの課題や、大学の先生方が退職されたり、転勤されたりして、次第に大学とのつながりが薄れていく中で、実践発表や卒論発表などが、これまで行ってきた研修中心の会を行うことが難しくなってきたことなど、学科の集いの持ち方について見直しを迫られているという状況が報告されました。

その一方で、いよいよ学科の集いを再開させたいと考えている学科もあり、それぞれの学科で抱えている事情は異なりますが、どの学科の代表者も、どのように組織を維持し、運営していくべきかを前向きに考えてくださっていることがよく分かりました。

令和六年度に、新潟大学は創立七十五周年を迎えます。教育学部同窓会が、全学同窓会の担当学部となりま

す。教育学部ならびに教育実践学研究所との連携を図りながら、母校の発展と卒業生の親睦を一層深めるために、同窓会の活動が貢献できればと思います。



教職大学院生 1年目の実践報告

**睡眠と生活習慣に関わる保健体育科での主体的学びが
中学生の生活の質向上に及ぼす効果
学校経営コース 堀 里也（新潟市立白新中学校）**

小中学生の精神的身体的不調に関連する深刻な指標である不登校の発生率は、2013年以降9年連続で増加している。これに関与すると指摘されることが多い要因のひとつに、子どもたちの生活習慣の乱れ、睡眠相後退による日中の心身の不調の深刻化がある。睡眠教育を行うことが中学生の心身の健康維持に効果的であることを示す報告は少なくない（たとえば Maeda 他, 2019）。加えて、今日の学校教育では教科を問わず、単なる知識の付与と行動ルールの提示と監視による管理型の指導ではなく、主体的かつ対話的な学びを通して身につけることが重視される流れにある。

そこで私は、1年目の実践として、中学生の睡眠とそれにかかわる生活習慣について、主体的かつ対話的に学び、習慣として身につけることにつなげる保健体育授業が、中学生の適応感の向上に及ぼす効果を検討することを目的とし研究を行った。

本研究における介入授業において、「『早寝早起き朝

ごはん』 中高生等向け普及啓発資料及び指導用資料」

（文部科学，2015）を参考とした独自の睡眠促進行動チェックリスト資料を作成した。家庭生活において適切な睡眠促進行動の変容につなげるため、保護者にも適切に睡眠と健康について啓発を図ることが欠かせない（成澤，2021）。生徒の主体的な学びによりその効果を最大限に発揮するためにも、生徒の学びの成果が保護者への啓発にもアプローチできる授業の在り方が望まれる。本介入においては、睡眠リーフレットおよび啓発動画の作成を行い、生涯を通じて健康の保持増進を目指す持続的な睡眠管理体制を目指した。

睡眠調査で得られた情報を学校教職員の生徒理解情報として共有し、学校教職員による個の課題に応じたフォローと学校から家庭への情報提供・情報共有による行動連携が重要となる。社会の夜型化が進行する中で、睡眠教育の必要性が求められる現状（浅岡・福田，2017）において、保護者にも睡眠に関する正しい知識を啓発し、生徒の睡眠の実態を本人・学校・家庭の三者で共有した上で、睡眠促進行動チェックリストの評価システムの構築を、次年度への課題としたい。

教師が自ら授業改善に取り組む校内研修に向けて ～相互に関わり合う授業研究に必要な要件～ 学校経営コース 井上 美恵(新潟市立新潟柳都中学校)

「学力向上」の要となるのが「授業」であり、教師は生徒の実態に合わせた授業改善をしなければならない。私は研究主任として、教師が自ら授業改善に取り組むようになる校内研修（特に授業研究）にするには何が必要なのかを追究し、実践していきたいと考えた。組織として行う授業研究だからこそ教師間の対話を大切にしたいと思い、1年目は、『実習校教師が相互に関わることでできる授業研究に必要な要件』を明らかにすることを目的にした。

8つの取組を実践し、観察と記録、教師へのインタビュー、教師へのアンケートを分析し、『実習校教師が相互に関わることでできる授業研究に必要な要件』を以下のようにまとめた。

①内発的動機

子どもの変容が分かったときや自分が満足がいく授業ができたときの喜びや達成感、やってみたいという挑戦心や興味といった、忙しい中でも生まれたプラス思考の感情が教師それぞれに授業研究の必要性を感じさせていた。そこに相互にかかわり合うことで、もっ

と授業や自分をパワーアップしたいという希望や期待、励ましてもらったときの安心感や自己効力感（できそうだ）、助言をされるありがたさといった感情が芽生え、それらの感情がさらに授業研究への意欲を高めていた。

②環境

対話をする時間があること、関わる必要がある（グループ追究にするなど）こと、関わりやすく日常的な会話ができる風土であること、相互のつながりを作る役割をするもの（研究推進だよりなど）があることが必要である。

③同僚性を高める組織とリーダーシップ

内発的動機が生み出され、対話をしたくなる環境となるための安心できる同僚性が必要である。同僚性を高めることで、お互いのために関わり合い、授業力向上を支え合い、さらに同僚性を高められる。そのため研究主任としてのリーダーシップも重要である。

2年目は、相互に関わることでできる校内研修の要件を満たすように校内研修を実践していきたい。特に同僚性を高める手立てを考え、実践していきたい。

教職大学院生 1年目の実践報告

社会的事象の見方・考え方を働かせる小学校社会科 での授業実践—思考ツールを活用して— 教育実践開発専攻ストレートマスター 船戸 祐英

私は、社会的事象の見方・考え方を働かせるとは何か、疑問に思っていた。1年次の前期に、学習指導要領における社会的事象の見方・考え方の分析や子どもの見方・考え方を働かせた授業での具体的な姿の観察を通して、社会的事象の見方・考え方を整理し、課題解決する際の視点や方法であることが分かった。その一方で、教師の発問の必要性、見方・考え方を働かせた姿を把握することの難しさを実感した。

1年次の後期では、社会的事象の見方・考え方を促す手立てとして、思考ツールを組み込んだ授業をデザイン、実践し、どのような活用の仕方をすれば、見方・考え方を働かせることが効果的か、その可能性を提案することを研究の目的とした。単元における見方・考え方の視点や考え方を設定し、それを基にその記述の何%が、見方・考え方を働かせたかを調べ、見方・考え方が働いた記述と思考ツールの関係性を考察した。

単元は、小学校6年生の「明治の新しい国づくり」（全8時間）を実施した。その中で、思考ツールは、クラゲチャートなど、それぞれのツールの使用目的を明確にして、活用することで、見方・考え方と思考ツ

ルとの関係を整理した。また、一枚ポートフォリオという、あらかじめ構成されたシートに、学習者が求められた情報を記述する方法を用い、授業全体の履歴が一枚のシートに書かれ、学習内容が一覧できるワークシートを活用し、子どもの考えの変化を可視化した。

その結果、2次の中で、見方・考え方を働かせた記述の割合が、最も高かった7時間目と同じ思考ツールを活用した割合が37%だった4時間目であった。これらを対象に、思考ツールと見方・考え方の関係を考察すると、学習課題・学習内容と思考ツールが合うことで、見方・考え方を働かせた記述が見られるため、活用目的と学習内容との関係を明らかにした授業構想をする必要があると分かった。

2年次では、「見方・考え方を働かせる」を軸に、小学校社会科での授業実践を行う。

目指す子どもの姿は、多様な視点で社会的事象を見て、獲得した知識や見方を総合し、関連付けて自分の考えを持つことである。その手段として、一枚ポートフォリオを使ったOPPA評価をもとに、蓄積した各授業の振り返りをもとに、見方・考え方を働かせて単元を通した問いに対する考えを表現できているかを、振り返りやまとめの課題の記述から分析する。

令和5年度 専門部活動計画

研修部

部長 坂内 徹

一 研修部活動計画

研修部では、同窓生が親睦を深めるとともに自己の人間的な資質を高めることを目的に本年度事業を以下のように計画した。多数の皆様の参加を期待したい。

二 事業内容

「第四十八回 同窓生の集い」

・期 日 令和五年九月十六日（土）
・会 場 アートホテル新潟

新潟駅南口直結

・講演会（午後三時十五分

～午後四時四十五分）

・演 題

「第二のふるさと新潟の学び」

・講 師 岡村 浩 様

新潟大学教育学部 教授

・懇親会 （午後五時～午後七時）

申込等詳細は十ページをご覧ください。

広報部

部長 栗田 貫

一 基本方針

○同窓会の活動や会員の声、大学の状況を積極的に紹介するとともに、会員のニーズに応える紙面づくりを目指すことで、役に立ち、取っておきとなる広報誌を目指す。

○大学の取組等に焦点を当てて広報活動することで大学と同窓会の連携を推進する。

○年間二回、四色刷りカラー印刷を継続して発行する。

二 活動内容

「教育新報」年間二回発行

○第一八五号（七月二十日発行予定）

巻頭言、令和五年度専門部活動計画、同窓会本部役員・支部長・学科代表一覧、令和四年度決算報告

令和五年度予算、大学コーナー、教職大学院実践報告、花鳥風月等

○第一八六号（二月二十日発行予定）

巻頭言、花鳥風月、「同窓生の集い」報告、「カミングホーム・デイ」報告、学科や支部の活動紹介、学校紹介（小・中・特支学校）、会員の広場等

組織部

部長 古井丸 裕三

一 活動の重点

（一）事務局及び学部、教職大学院（教育実践学研究科）と連携し、同窓会会員の連帯意識の高揚を図る。

（二）事務局及び支部長、学科代表と連携し、永年会員となる現役の学生、既に永年会員である卒業生に対して、同窓会員である意識を高めるとともに、同窓会活動への理解を得られるよう働き掛ける。

（三）各専門部と連携し、各事業の組織運営に関わるサポートを行う。

二 活動の内容

（一）支部長会の開催

（二）学科代表者会の開催

（三）カミングホーム・デイ（交流部）の開催に関するサポート

（四）同窓生の集い（研修部）の開催に関するサポート

三 その他

支部長、学科代表者との連携を一層図るとともに、事務局と連携し、教職に就いているかどうかに関わらず、卒業生（退職者も含めて）とのつながりを確認なものを目指すことを目指していく。

交流部

部長 諸橋 智

一 基本方針

学生や卒業・修了生を取り巻く状況について、大学・現場・同窓会の三者でよりよい取組を求めて情報交流を深める。

二 事業内容

（一）「カミングホーム・デイ」

・期 日 令和五年八月五日（土）

・会 場 ホテルサンルート新潟

・内容 参加費無料の昼食会による、若手現場教員との交流会

（二）「新潟大学教育学部並びに教育実践学研究科教職員との懇談会・懇親会」

・期 日 令和六年一月一八日（木）

・会 場 アートホテル新潟

・内容 大学と同窓会による学部、教育実践学研究科の現状と取組、卒業・修了生の就職状況や現場との連携についての情報交流会・懇親会

・懇親会

三 各種教育関係機関や他団体との連携促進

・新潟大学全学同窓会交流会・懇談会

への参加

令和5年度 同窓会本部役員

☆印は新役員

役 職	氏 名	支 部	校名など
会 長	臼杵 勇人	新 潟 東	自宅
副会長	小林由希恵	新 潟 西	新通つばさ小学校
	近藤 幸栄	新 発 田	二葉小学校
	梶谷 正夫	長 岡 西	大島小学校
	小泉 浩彰	新 潟 北	岡方中学校
事務局	杉山 和敏	新 潟 西	教育学部同窓会事務局
	高橋 円		
専 門 部	研修部	◎坂内 徹	新 潟 東 下山小学校
		○小泉 慎子	新 潟 西 坂井東小学校
		志田江利子	新潟中央 新潟市教委学校指導課
		横山 雄大☆	新 潟 北 早通中学校
	広報部	◎栗田 貴	新潟西蒲 岩室小学校
		○音田 和行	新潟西蒲 新潟市立総合教育センター
		若月 利春	新潟西蒲 岩室小学校
		高橋 新一	新 潟 東 木戸小学校
	組織部	國井恒太郎	新潟中央 紫竹山小学校
		◎古井丸裕三	新潟西蒲 曾根小学校
		○平田 伸一☆	新潟秋葉 荻川小学校
		樋口 大輔	新潟中央 浜浦小学校
		加藤 雅晃	新 潟 北 松浜小学校

役 職	氏 名	支 部	校名など
専 門 部	交流部	◎諸橋 智	新 潟 西 五十嵐小学校
		○永井 高志	新潟中央 新潟市こども創造センター
		古川 智子	新潟秋葉 新津第一小学校
		藤田 凌	長 岡 西 青葉台小学校
監 事		石塚 智久	新潟秋葉 新関小学校
		川又 由香	新 潟 北 岡方第一小学校
		牧野淡紅恵	新潟秋葉 秋葉区教育支援センター
顧 問		中川 幸次	県 外 自宅
		江口 直禎	新潟中央 自宅
		大関 雄策	新潟中央 自宅
		磯辺 浩昭	新 発 田 自宅
		藤井 保男	新 潟 東 自宅
		斎藤寿一郎	新 潟 東 自宅
		佐藤 重勝	新潟秋葉 自宅
		安達 徹	新潟秋葉 自宅
新潟大学全学同窓会	理 事	臼杵 勇人	新 潟 東 自宅
	運営委員	山下あい子	新潟西蒲 自宅
		畠山 典子	新潟西蒲 自宅
		松井 裕美☆	新潟中央 新潟市児童センター
		岡村 浩	大 学 新潟大学経済科学部

令和5年度 同窓会学科代表 ☆印は新代表

	学科名	学科代表	校名など
1	国 語	三村 孝志	猿橋中学校
2	地 理	西方 俊也	大淵小学校
3	歴 史 研 究 室	高橋 裕幸	白山小学校
4	経 済	小庄司一泰	新潟市教育委員会学校支援課
5	哲 倫	清野 真輝	曾根小学校
6	社 会	土田 宏美	内郷小学校
7	算 数・数 学	小竹 智	月潟中学校
8	物 理	茂呂 良彦	自宅
9	化 学	栗林 操	田上中学校
10	生 物	八百板恵理子	新潟市教育相談センター
11	地 学	横山 雅史	神林中学校
12	英 語	峯島 道夫	新潟県立大学国際地域学科
13	音 楽	斎藤 隆	白南中学校
14	美 術	永井 高志	新潟市こども創造センター
15	保 健 体 育	栗田 貴☆	岩室小学校
16	家庭 [萌木会]	山際 章子☆	自宅
17	職 業 指 導	松村 明彦	自宅
18	教 育	山岸 真夫	自宅
19	教 育 心 理	岡田 義則	早通小学校
20	技 術	倉島 陽介	光晴中学校
21	特 別 支 援 教 育	参宮 美樹☆	附属特別支援学校
22	養 教 特 別 別 科	柳 真里子☆	ふれあいの丘支援学校
23	幼 児 教 育	近藤 和徳	新潟市教育委員会教育総務課
24	学社ネットワーク	小柳加奈子	自宅
25	生 活 科 学	遠山麻依子	光晴中学校
26	生 活 シ ス テ ム	大森 山	城北中学校
27	健 康 ス ポ ー ツ	大口 良平	新井小学校
28	書 道	岡村 浩	新潟大学経済科学部

令和5年度 同窓会支部長 ☆印は新支部長

地 域		支 部	支部長	校名など
上 越	1	上 越	鹿目 功二	ひすいの里総合学校
	2	長 岡 東	小磯 雅浩☆	中越教育事務所
	3	長 岡 西	渡邊 正博☆	青葉台小学校
	4	三 条	石原 淳一	笹岡小学校
	5	柏 崎・刈 羽	川上 節夫	日吉小学校
	6	小 千 谷	高橋 豊☆	総合支援学校
	7	加 茂	亀倉 伸嘉☆	須田小学校
	8	十日町・津 南	南雲 恵子☆	鑑島小学校
	9	見 附	平野 秀穂☆	見附小学校
	10	燕	坂内 克明	燕西小学校
	11	魚 沼	佐々木政彦☆	小出小学校
	12	南 魚 沼	桑原 洋文☆	おおまき小学校
	13	弥 彦	五十嵐靖之☆	弥彦中学校
	14	田 上	荒井 純	田上小学校
	15	湯 沢	鎌田 和則☆	湯沢小学校
	16	出 雲 崎	*	*
中 越	17	新 潟 北	阿部 勉☆	南浜小学校
	18	新 潟 東	貝沼 浩晃☆	木戸小学校
	19	新 潟 中 央	土田 学☆	万代長嶺小学校
	20	新 潟 江 南	川口由美子	東曾野木小学校
	21	新 潟 秋 葉	風間 健二☆	新津第二小学校
	22	新 潟 南	小川 和宏☆	根岸小学校
	23	新 潟 西	山口 潤	黒崎南小学校
	24	新 潟 西 蒲	林 なおみ☆	中之口東小学校
	25	新 発 田	関川 紀博	七葉小学校
	26	村 上	松田 洋平	村上小学校
	27	五 泉	若狭 陽一☆	五泉南小学校
	28	阿 賀 野	樋口 憲哉	堀越小学校
	29	胎 内	佐藤 健☆	胎内小学校
	30	聖 籠	岡田 崇宏☆	山倉小学校
	31	阿 賀 賀	国本 力☆	阿賀津川中学校
	32	関 川	金子 浩☆	関川中学校
	33	粟 島 浦	久保 智音	粟島浦中学校
佐 渡	34	佐 渡	森 和人☆	真野小学校

令和 4 年度 一般会計決算報告

1 収入の部

項 目	R4 年度収入額	R4 年度予算額	比 較	摘 要
1 繰 入 金	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	35	0	35	利息
合 計	7,000,035	7,200,000	▲ 199,965	

2 支出の部

(▲は残額)

項 目	R4 年度執行額	R4 年度予算額	残 額	摘 要
1 会 議 費	31,887	42,000	▲ 10,113	会計監査・第 2 回本部会 (他の会議は中止のため執行なし)
2 旅 費	27,150	172,000	▲ 144,850	会計監査、本部会 (項目の部開催の旅費は各部での執行とする)
3 助 成 費	162,330	270,000	▲ 107,670	学科助成、支部助成、同期の会助成
4 事 務 局 費	1,208,785	1,100,000	108,785	消耗費、電話代、光熱費、封筒印刷代、印刷紙代、機器更新、通信費等
5 研 修 費	284,635	350,000	▲ 65,365	同窓生の集い企画・運営経費、旅費
6 広 報 費	730,507	790,000	▲ 59,493	機関紙発行 2 回、記事謝礼 2 回、パンフNo.12 作成
7 組 織 費	0	200,000	▲ 200,000	
8 交 流 費	112,725	230,000	▲ 117,275	交流会企画運営費・経費・旅費、カミングホームデイ中止
9 大学・学生支援費	169,875	880,000	▲ 710,125	研究会助成、学生支援 7 学科、卒業制作展助成、カレンダー作成、附属校研究発表会祝儀
10 奨 学 金	600,000	750,000	▲ 150,000	大学院教育実践学研究科現職院生奨学金 (4 × 150000)
11 全 学 同 窓 会 費	483,425	490,000	▲ 6,575	全学同窓会負担金、全学役員旅費、全学交流会懇親会補助
12 人 件 費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬 2 名
13 その他予備費	115,110	126,000	▲ 10,890	全学教職支援センター助成金、新潟教育会助成金、新大祭、群馬県支部祝儀等
合 計	5,726,429	7,200,000	▲ 1,473,571	

3 残高の部 7,000,035 − 5,726,429 = 1,273,606 円 * 残金は年度末総合口座に繰り入れます。

令和 4 年度 総合会計決算報告

1 収入の部

(▲は予算に対して減)

項 目	R4 年度収入額	R4 年度予算額	比 較	摘 要
1 繰 越 金	29,658,628	36,658,628	▲ 7,000,000	前年度繰越金 (第四総合口座前年度末残金)
2 学 校 会 員 会 費	1,935,666	2,100,000	▲ 164,334	会費 - 振込手数料
3 個 人 会 員 会 費	104,061	140,000	▲ 35,939	会費 - 振込手数料
4 永 年 会 員 会 費	3,397,457	2,400,000	997,457	会費 - 振込手数料
5 繰 入 金	1,273,606	0	1,273,606	一般会計への繰出金に残金があったので、総合口座に戻した額
6 雑 収 入 ①	120	0	120	一般口座利息
7 雑 収 入 ②	130	0	130	一般口座利息
8 雑 収 入 ③	593	0	593	銀行定期利息など
合 計	36,370,261	41,298,628	▲ 4,928,367	

2 支出の部

項 目	R4 年度執行額	R4 年度予算額	比 較	摘 要
1 一 般 会 計 繰 出 金	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	
合 計	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	

3 残高の部 36,370,261 − 7,000,000 = 29,370,261 円 * 残金は、令和 5 年度第四北越総合会計に繰り越します。

大学教官の異動

(昨年度の七月以降)

◎学部を去られた先生

准教授 一柳 智紀 (教職大学院) 令和四年九月末日 退職

教授 松澤 伸二 (英語) 令和五年三月末日 定年退職

教授 鈴木 賢二 (技術) 令和五年三月末日 定年退職

教授 土佐 幸子 (理科) 令和五年三月末日 定年退職

教授 八坂 剛史 (健康・スポーツ科) 令和五年三月末日 定年退職

教授 森下 修次 (音楽) 令和五年三月末日 定年退職

准教授 坂井 純 (教職指導) 令和五年三月末日 定年退職

准教授 遠藤 英和 (教職大学院) 令和五年三月末日 任期満了退職

准教授 田村 和弘 (教職大学院) 令和五年三月末日 任期満了退職

准教授 森田 隆行 (教職大学院) 令和五年三月末日 任期満了退職

◎新しくおいでになった先生

助教 国正 陽子 (健康・スポーツ科) 令和四年七月一日 採用

特任教授 村川 孝子 (教職指導) 令和四年十二月一日 採用

講師 中西 裕也 (理科) 令和五年四月一日 採用

准教授 工藤 千晶 (音楽) 令和五年四月一日 採用

准教授 塩原 佳典 (学校教育) 令和五年四月一日 採用

講師 浅見 祐香 (教育心理学) 令和五年四月一日 採用

准教授 橋本 佳恵 (教職指導) 令和五年四月一日 採用

講師 有井 優太 (教職大学院) 令和五年四月一日 採用

特任教授 高橋 恒彦 (教職大学院) 令和五年四月一日 採用

准教授 酒井 武志 (教職大学院) 令和五年四月一日 採用

准教授 野住 明美 (教職大学院) 令和五年四月一日 採用

講師 金子 岳史 (技術) 令和五年四月十一日 採用

◎昇任された先生

教授 雲尾 周 (教職大学院) 令和四年七月一日 昇任

教授 中村 和吉 (家庭) 令和五年一月一日 昇任

(敬称略)

令和 5 年度 一般会計予算

(▲は、前年度比較減)

1 収入の部

項 目	R5 年度予算額	R4 年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 入 金	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	総合会計から繰入れ
2 雑 収 入	0	0	0	
合 計	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	

2 支出の部

項 目	R5 年度予算額	R4 年度予算額	増 減	摘 要
1 会 議 費	40,000	42,000	▲ 2,000	本部会、評議会、会計監査会等の会場費、お茶代
2 旅 費	140,000	172,000	▲ 32,000	本部会、評議会、監査会旅費
3 助 成 費	450,000	270,000	180,000	学科助成、支部助成、同期の会助成、学科の集い助成
4 事 務 局 費	1,200,000	1,100,000	100,000	ヤマト送料、電話・光熱費、印刷代、消耗品等
5 研 修 費	380,000	350,000	30,000	集い企画運営費等（会場費、講師謝礼、参加助成等）
6 広 報 費	750,000	790,000	▲ 40,000	機関紙「教育新報」発行代、同窓会パンフ作成代
7 組 織 費	20,000	200,000	▲ 180,000	運営諸経費
8 交 流 費	250,000	230,000	20,000	交流会企画運営費、カミングホームデイ企画運営費
9 大学・学生支援費	600,000	880,000	▲ 280,000	卒業論文発表会助成、卒業制作発表会助成、卒業祝賀会助成等
10 奨 学 金	750,000	750,000	0	奨学生 5 名
11 全 学 同 窓 会 費	500,000	490,000	10,000	負担金、全学理事会・運営委員会旅費等
12 人 件 費	1,800,000	1,800,000	0	事務局報酬 2 名
13 その他 予 備 費	120,000	126,000	▲ 6,000	全学教職支援センター助成、新潟教育会館助成等
合 計	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	

令和 5 年度 総合会計予算

(▲は、前年度比較減)

1 収入の部

項 目	R5 年度予算額	R4 年度予算額	増 減	摘 要
1 繰 越 金	29,370,261	36,658,628	▲ 7,288,367	前年度繰越金（第四北越銀行総合口座前年度末残金）
2 学 校 会 員 会 費	2,000,000	2,100,000	▲ 100,000	会費 - 振込手数料
3 個 人 会 員 会 費	100,000	140,000	▲ 40,000	会費 - 振込手数料
4 永 年 会 員 会 費	3,000,000	2,400,000	600,000	会費 - 振込手数料
5 繰 入 金	0	0	0	*一般会計への繰出金に残金が出た場合、年度末に繰入
6 雑 収 入	0	0	0	銀行利息など
合 計	34,470,261	41,298,628	▲ 6,828,367	

2 支出の部

項 目	R5 年度予算額	R4 年度予算額	増 減	摘 要
1 一 般 会 計 繰 出 金	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	
合 計	7,000,000	7,200,000	▲ 200,000	

事務局だより

□「評議会」の報告

令和五年度は、コロナウィルスがようやく収束し、数年ぶりの対面での評議会を行うことができました。全県から集まられた支部長・学科代表（評議員）の皆さんの熱い話し合いを通して、すべての議案が承認されました。大変ありがとうございました。

□「新しい第一歩を」

今年度は、令和元年度以来休止又は条件付きで実施していた以下の活動を制限なしで実施いたします。「カミングホームデイ」(8月)「同窓生の集い」(9月)「全学同窓会交流会」(10月)

文書、教育新報、ホームページなどいろいろな方法でお知らせいたします。どうか皆さんで声を掛け合ってください。楽しく語り合いましょう。

□「会費の納入と名簿の提出」

本年度もスタートしてから4か月が過ぎました。会費の納入はお済でしょうか。名簿の提出はいかがでしょうか。支部長さんのところには送って頂いてでしょうか。今からでも遅くはありません。ぜひお願いいたします。

コロナ禍を契機に

変わった教育実習

教育学部副学部長 北村 繁

教職員免許状の取得には、教育実習が必須ということはいうまでもありません。また、教育学部では、卒業必修でもありますから、教育学部の同窓生の皆様は、ごなたも教育実習に行かれたご経験をお持ちのことと思います。

皆様にとって、教育実習はどのような思い出でしょうか。「楽しかった」とても充実した時間だった」という思い出をお持ちの方も多いことでしょうし、その体験から教員の道を進んで、教員になった方も少なからずいらっしゃると思います。その一方で、「とにかく大変だった」「学校生活の中で一番辛かった」という感想の方もいて、それをきっかけに教員以外の道を進んだ方もいらっしゃるかもしれません。

私自身が三十数年前に行った教育実習の思い出は、後者に近いものでした。母校の高校で2週間（当時は土曜日も半日ありました）の間に14回の授業を行いました。とにかく授業の準備が大変で、毎日夜遅くまで授業の準備に追われ、とにかく「眠りたい」と思う毎日でした。毎回の授業のダメ出しと真つ赤になるまで実習日誌に書き込みをしてくださった担当の先生には大変感謝していますが、当時の私にとっては落胆の日々でした。その後、私は、高校の教員以外の道を進みましたが、

教育実習は、教員になりたい人の訓練という意味のほかに、向いていない人が教員になるのを諦めるきっかけの一つだとさえ思っていました。

そんな私が教育学部の教員になるとは、5年前まで露ほども思っていませんでした。縁あって2019年から新潟大学教育学部に赴任しました。私の赴任当時、新潟大学教育学部では、3年生の6月と10月にそれぞれ2週間、主免の教育実習（卒業必修）が、4年生の6月に副免の教育実習（選択）が2週間行われていましたが、それらが大学の講義期間と重なっていることが問題となっており、実習期間を変更する議論が進んでいました。同時に、私が教育実習に行ったところとあまり雰囲気が変わっていないのか、「教育実習を契機に教員志望率が低下する」ともいわれており、その改善についての議論も行われていました。

そんななか、COVID-19パンデミック（いわゆる「コロナ禍」）により、2020年は、従来通りの時期に教育実習を行うことが不可能となりました。そのため、附属校園と新潟の市の中の小中学校にご協力いただきながら、時期を11月にまとめて3週間で実施することとなりました。

ところが、瓢箪から駒とはまさにこのことで、教育実習を1回にまとめたことで、学生からは、実習開始から研究授業までの時間が長くなって余裕をもつて実習に取り組めた、3週目にな

ると授業だけでなく生徒の観察を行う余裕ができた、一つの学校に長くいたので学校の中のことにより理解できたといった評価が聞こえてきました。そこで、2021年からは思い切つて、3年生の主免実習を9月に移し、期間も4週間にまとめて1回行うかたち（4年生の副免実習も同時期に2週間に変更しました。これは、以前から最有力候補として挙がっていましたが、2020年の教育実習での学生の声が決め手の一つとなりました。

2021年に変わったのは、実習の時期・期間だけではなく、実習の方法についても、変更が加えられました。主免実習では、実習生の授業担当は、目安として週3回程度、間に授業のない日を設けて、振り返りや次の授業の準備にも余裕をもたせて頂けるよう、お願いしました（4年生の副免実習では、2週間で5回程度）。同時に、

学生には、授業やその準備だけに注力するのではなく、ベテランの先生方の声かけや指導の方法、生徒の反応などをよく観察・分析するよう伝えました。同時に、実習生の受け入れの中心となった附属校園の先生方も、さきの変更に伴って、授業偏重の実習から、生徒との関係づくりなどを通して「教員の魅力を伝える」実習へと指導の重心を移してくれました。附属校園の働き

方改革が進行中だったこともあって、実習生は6時までには帰宅することに、夜遅くまで学校で授業準備をする

こともなくなりました。

2022年度からの教員志望アンケートでは、教員を「強く志望する」「志望する」とした割合を2022年に教育実習を行った学年で見ると、実習前（3年進級時）は63%だったものが、実習後（4年進級時）には79%に上昇しました。まだ十分な裏付けはありませんが、これも新たな教育実習の成果とみて、今後も同様の教育実習を継続して行こうと考えています。

新潟大学教育学部では、2021年度入学生（現在の3年生）から、小重複数免許が必修となり、3年次主免実習4週間と4年次副免実習2週間の両方の教育実習に必ず行くこととなりました。このため2024年度からは、延べ人数としては、より多くの実習生を送り出すことになります。

同窓生の皆様の中には、新潟・長岡の市中校で教員をされている方がおられることと思います。もし、今後、新潟大学教育学部からの実習生を担当して頂く場合には、他大学とは異なる9月という時期に、長期間実習生を指導して頂くことになり、多大な負担をおかけすることになってしまいますが、新潟大学教育学部の教育実習が、従来の授業中心・短期集中型の実習から、学校全般についてじっくり積み上げて「教員の魅力を知る」教育実習へと向かったことをご理解いただき、これまで以上のご指導ご支援を賜りたく、何卒宜しくお願い申し上げる次第です。

第48回 同窓生の集い

講演会

第二のふるさと新潟の学び

日時

令和5年 9月16日(土)

15:00より

(14:30受付開始)

講師

岡村 浩 氏

新潟大学 教育学部 教授



新潟大学教育学部の卒業生でもおられます。越佐文人研究会代表を務められ、良寛、会津八一を中心とする新潟ゆかりの書画研究をされています。岡村鉄琴という筆号雅号でもご活躍であり、新潟日報で執筆中です。「変わりゆく学び舎」「学生との日常から」「伝統文化と良寛さん」のキーワードを基に素敵なお話に乞うご期待です。

場所

アートホテル新潟

〒950-0911 新潟県新潟市中央区笹口 1-1

TEL.025-240-2111

申し込み&問い合わせ先

新潟大学同窓会事務局

TEL & FAX 025-263-6760

MAIL dousou@ed.niigata-u.ac.jp

※火曜から金曜までの12:45 から16:45 の間にお問い合わせいたします。

日程

受付 14:30～

開会式

15:00～15:15

講演会

15:15～16:45

懇親会

17:00～19:00

入場料

無料

懇親会

新潟大学教育学部の卒業生の方は、是非懇親会にもご参加ください。参加を希望される方は8月25日までにご連絡ください。参加費は6,000円です。(同窓生には一部補助をします。)

主催

新潟大学教育学部
同窓会